

2025 年度 進路指導方針

長野県伊那弥生ヶ丘高等学校 進路指導方針

－進路目標の実現を目指して－

1 進路意識を高めるための進路指導の充実

進路の多様化に合わせ、生徒のモチベーションや進学意識を高めるための指導計画を立て、進路を考える機会や就業体験・模擬授業の受講など、実際に参加・体験することを通じて職業観や探究心を育成する。

◇キャリア教育の推進

(1) 就業体験（夏期休業）

本校のキャリア教育の中核となるのは体験学習であり、職業理解のほか将来の進路について考える機会となるよう希望者を対象に実施する。

(2) 体系的なキャリア教育の実施

就業体験に加え、様々な機会を設定して生徒のキャリア観育成支援を行う。

- ・ 1, 2 年次の「総合的な探究の時間」等を活用し、地元の様々な職業人とつながりを持つことで、職業研究等を体験的に学習する。
- ・ 春と冬に行われる産業視察や高校内企業説明会への参加を呼びかけ、職業観や労働観に対する意識を高め、自己の進路選択へとつなげていく。
- ・ キャリア教育の推進の重要性を職員全体で認識し、研修に努める。また、教科活動の中でもキャリア教育を一層推進していく。

◇大学連携講座の充実

(1) 「信州大学授業見学会」（7 月・10 月）とオープンキャンパス参加の奨励

信州大学で行われている「高校生のための授業公開」への参加に加え、各大学のオープンキャンパスや各種大学ガイダンス等への積極的な参加を促し、体験学習を通じて学部・学科の理解や学習への動機付けの貴重な機会とする。なお、前述の就業体験とオープンキャンパスに関しては、1・2 年次に少なくともどちらか一方に参加するようにする。

(2) 1 学年進路見学会（12 月）

キャリア教育の1 年間の総括と学問分野の探究や学部・学科研究の発展的実践を目的として、学年行事として大学等の見学を中心とした体験学習を行う。

(3) 総合的な探究の時間（L 総）との連携

総合的な探究の時間において、生徒が大学での学びを体験することで、個人探究や学問探究（研究）に生かす探究活動の取り組みをサポートする。

探究活動で得た成果を、総合型選抜や学校推薦型選抜に生かせるように学習係と連携を図る。

2 学力向上支援のための学習指導の実践

全ての学習活動の基本となるのはあくまで授業であり、生徒の知的関心の喚起を図るとともに、確かな学力をつけるために常に授業改善に取り組んでいく。また、生徒をより積極的に学びの場へと向かわせ、学習時間の確保と定着を図り、学力向上と進路希望の実現を支援するために、計画的に補習等を実施していく。

◇補習・特別授業

(1) 課題配信等の利用

各学年とも必要に応じて課題配信等を行い、基礎学力の定着をはかれるよう工夫し、自習の力を養うような機会にするとともに、意欲的・継続的な参加を習慣づけるよう指導する。

（２）平日補習・長期休業補習

各学年とも必要に応じて実施する。特に３年次９月（一部は７月から実施）から実施する平日補習については、実践的な学力の養成を目指して、効果的な時間割・内容でより一層の指導の充実を図る。

（３）大学入学共通テスト対策と国公立大２次・私大入試対策

３年次の大学入学共通テスト対策特別編成授業については、常にその内容の研究を重ね、効果的な時間の確保に留意して設定する。大学入学共通テスト後に行われる短期集中型の国公立大２次・私大入試対策授業は、個別の進路に対応した高度な内容の講座を設定する。

◇小論文指導

- ① １・２年次から「総合的な探究の時間」などを通して書くことを重視した取り組みを行う。併せて３年間を見据えての小論文講演会やガイダンス、小論文模試などを計画する。取り組みを継続的に実施しながら、進路選択を含めて具体的な形に結びつくよう指導する。
- ② 小論文個別指導に関しては、指導を希望する３年生を対象として７月より全職員の協力をお願いして指導していく。まず始めに、三者懇談会期間に図書館司書によるレファレンスを行う。
- ③ ３年次夏期休業中に「小論文セミナー」を実施する。
- ④ 全職員が小論文指導に携わることとする。進路指導係が指導の必要な生徒を把握した上、職員の専門性も考慮しつつ夏期休業後に割り振りをし、指導を実施する。担当する生徒については、小論文指導のみならず、志願理由書や面接等の指導も併せて行う。また、進路指導係は必要に応じて小論文指導の職員研修会等を企画する。

◇校外模試

- ① 校外模試は実施に値するものを精選し、模試解説などを含めて生徒のモチベーションを高める方向で効果的に作用するよう留意して実施する。
- ② 志望校によっては、各種オープン模試への積極的参加を勧める。
- ③ 模試実施後、模試担当係は問題冊子を当該教科に配布する。各教科においては、それを参考資料とする。
- ④ 模試結果は試験ごとに全職員で情報を共有し、その後の指導の参考にする。

◇英語検定受検の奨励と指導

- ① 大学側が英語４技能を求めていく方向性は今後も変わらない点を英語科及び進路指導係でも共有・確認し、本校としてはこれまで通り、引き続き英語検定受検を奨励していく方針である。
- ② 年３回実施の英検（実用英語技能検定）に関しては、日頃の受検指導に加え、一次試験合格者に対する二次試験対策としての面接指導を、英語科職員全員で行う。

◇学習室「日輪館」

創立１００周年記念事業により整備された「日輪館」を効果的に活用し、生徒が切磋琢磨する場となるように、「日輪館使用規定」に基づき、平日の朝・夕と土曜日などに開放して運用していく。日輪館の開室及び閉室については、当番職員が行う。土曜日に関しては、当番は年間計画表により全教職員が輪番で当たる。

◇進学指導の流れ

本格的な進学指導の開始時期を２年次修学旅行後の１２月頃とし、３年０学期として意識づけを促し、効果的な指導計画を策定して実施する。３年次については、クラブ活動、及び文化祭終了後に受験に向けての切り替えを再度図る。

3 進路指導計画の学年会・進路係会における十分な検討と実践

- ① 指導が学年を追って系統的・発展的なものとなるように、学年と進路指導係は十分に連携・協働して指導計画を立て、実施に当たる。
- ② 新旧3学年担任引継ぎ会を早めに持ち、進路指導のノウハウや改善点などを伝達し、受験指導の継承・発展を図る。本年度は5月上旬（昨年度は5月9日(月)）に実施する。
- ③ キャリア教育の推進、進路意識の啓発や研究意欲の醸成、基礎学力の育成、FINE SYSTEM や Kei-Navi の有効活用などを図るために、学年と進路指導係は連携を密にしていく。

4 幅広い進路情報の収集と提供

- ① 進路情報誌等を利用した研究のほか、大学説明会への参加や大学訪問など多くの事例研究を行い、生徒や保護者の疑問・要望に応えられるようにし、進路に向かう雰囲気を醸成する。
- ② 担任は入試説明会等への参加で情報を得るとともに、学年会等で報告の機会を作り、担任間で情報を共有する。また、生徒への情報提供も学年統一して行う。
- ③ 「学年進路通信」は生徒に進路の情報や刺激を与える効果が大きいため、継続的な発行を進めるとともに、内容の充実に努め、学年・HRでの利用法についても工夫する。発行した場合には全職員にも配布し、学年の進路指導を全校で共有すると共に、次年度への参考とする。

5 個人面接を重視した進路指導の推進

- ① 全体指導とともに、面談週間（4～5月と10月）や保護者懇談会（7月と12月）のほか可能な限り個人面接の機会を設け、生徒のサポートや学習・進路に対する意識付けを図る。
- ② FINE SYSTEM や Kei-Navi を活用した個人面接の導入など、その内容と方法を常に研究する。

6 就職指導の充実

就職については、進学に比べて時期が早いので、2年次後半から指導を始め、3年次5～6月が準備の山場となるよう早めに説明会を実施し、併せて公務員試験対策や面談を進める。

7 その他

- ① 進路指導係会を中心に各学年が連携して指導に当たるとともに、小論文指導・補習・学習合宿など各学年に合った企画を模索し、全員で労を惜しまずに取り組んで行く。
- ② 大学入学共通テストでは理系6教科8科目、文系7教科9科目受験をするよう勧め、最後まであきらめない指導をする。
- ③ 学校推薦型選抜・総合型選抜拡大の中で、その利用と効果的な対策を継続して講じていく。
- ④ 学校推薦型・総合型選抜で大学に合格した生徒にも、原則として共通テストを受験させるが、本人・保護者に対して丁寧にその趣旨を説明し、指導する。